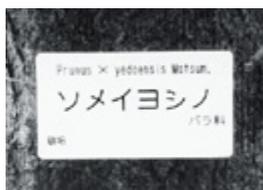




(高萩市歴史民俗資料館蔵)



「ソメイヨシノ」の学名のついた札



松村 任三 まつむら じんぞう

安政3年(1856) - 昭和3年(1928)

近代植物学の基礎を築いた学者
高萩市

多賀郡下手綱村(高萩市)生まれ。幼名は辰太郎。元服して任蔵、のち任三と改める。明治3年(1870)、松岡藩から貢進生として東京の大学南校〔東京大学〕に入学する。明治10年(1877)、矢田部良吉教授に声をかけられ、東京大学植物園に奉職する。同時に矢田部教授に随行して全国で植物を採集し、その標本は約3千種類に達する。その間、モース(動物学者)の助手として大森貝塚の発掘調査にも随行する。明治18年(1885)にはドイツに留学し、植物分類学を学ぶ。明治30年(1897)には小石川植物園初代園長に任命される。任三が植物につけた学名は数多いが、その代表格が「ソメイヨシノ」や「ワサビ」である。

主な内容

- ▼ 台風19号被害に迅速対応
- ▼ 被災地でごみ運搬ボランティア活動
- ▼ 建設フェスタ2019を開催
- ▼ 建女ひばり会が初会合

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

本会はコンプライアンス(法令遵守)をさらに徹底します

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

応急復旧工事に全力

台風19号被災 地域の「守り手」として貢献



応急復旧活動に尽力

本会では、10月12日と13日に本県を襲った台風19号によって被災した県内の堤防や河川、道路の応急復旧工事、ドローンによる現地調査などを行い、地域の安全確保に尽力する建設業としての使命を果たすために活動しました。

地域の住民からは、早急な対応に感謝の言葉が寄せられています。

本会では被災直後から、国や県との災害協定に基づき、地域に精通した建設業者として各地で応

急復旧工事に着手。昼夜を問わず一日も早い復旧へ工事を進めました。

県内では特に河川の被害が大きく、那珂川や久慈川などで堤防が多数決壊。甚大な浸水被害が発生しました。会員各社では、国土交通省の県内出先事務所や県土木部の出先事務所と連携を密にして、各地で応急復旧活動を展開。地域の安全・安心を守る「地域の守り手」として力を尽くしました。

台風19号による県内の被害状況（10月31日現在）

- ◆人的被害 死者2名、中等傷6名、軽傷13名、行方不明1名
- ◆建物被害 全壊271棟、半壊2146棟、一部損壊954棟、床上浸水463棟、床下浸水755棟
- ◆河川被害 国管理河川は那珂川・久慈川など6河川14カ所被災（うち堤防決壊6カ所）
県管理河川は59河川・2砂防施設・3海岸・1ダムの計135カ所被災（うち堤防決壊6カ所）
- ◆道路被害 水戸北スマートICが水没
県管理道路は107カ所で通行規制。事前通行規制（雨量、強風等）12カ所、路面冠水67カ所（うち河川増水58カ所）、倒木11カ所、法面・路肩崩壊17カ所。
- ◆鉄道被害 水郡線の久慈川橋梁が流出
- ◆県施設 大子合同庁舎など4件が浸水。その他雨漏りなど59件

災害ごみを運搬処理

被災地で ボランティア活動

住民から感謝の声



被災した家屋の整理にも取り組みました



ボランティア活動で災害ごみを搬出

本会では、台風19号によって特に大きな被害がありました常陸太田市、常陸大宮市、大子町に作業員を派遣して、災害ごみ運搬などのボランティア活動を展開。10月20日から26日まで延べ約400人が、浸水被害により民家の敷地横や道路端に集積した災害ごみを処理場に運搬する作業を行いました。

住民からは「本当に助かります。ありがとうございます」と感謝されました。

ボランティア活動には、比較的被害が少なかった県内他地域の支部会員が集結。参加人数は延べ259人で、被災地の支部会員の参加者も合わせると合計延べ約400人が活動に汗を流しました。

本会の石津健光会長は「地元の方々がいつもの生活に戻れるようにお手伝いした」と活動の意義を強調しました。



浸水した家具などの収集を行いました



分別や解体をしながら奉仕作業

建設フェスタ2019開催

11月2日(土) 笠松運動公園 特設会場

本会をはじめとする県内の建設業団体、国土交通省や県などは「建設フェスタ2019」を11月2日(土)、ひたちなか市の笠松運動公園の屋内水泳プール西側特設会場で開催しました。過去最高の約2万6000人が訪れ、建設作業の体験リレー、建設機械の体験、丸太切り、クイズなどを行い、建設業を身近に感じてもらいました。展示では県内のインフラ整備状況を紹介したほか、台風19号によって被災した県内河川の応急復旧工事のようすなど防災・減災への取り組みなどの紹介コーナーもあり、多くの人が関心を寄せていました。



親子で丸太切りに挑戦



建設作業体験リレー



重機体験

建設業の楽しさをアピール

過去最高の2万6000人来場

緊急物資輸送ゲーム



■石津健光・本会会長



建設業は県民の身近な場所で道路や河川などの整備を行っています。現場の近くに寄られた際にはお声をお掛け下さい。それが何よりも励みです。建設フェスタは建設業を身近に感じていただけるお祭りです。

子どもワークショップ



■大曾根理一郎実行委員長



自然災害への対応など建設産業は大きな課題を抱えています。建設フェスタの開催を通じて建設産業の大切さを伝えていくことが課題解決につながると確信しています。

消波ブロックの役割



測量体験



台風19号への建設業の対応もパネル展示



全国各地から約2万6000人が訪れた



建女ひばり会が初会合 女性活躍の現場見学会を



本会の女性部会「建女ひばり会」(柳瀬香織会長)は10月18日、発足後初の幹事会を水戸市の県建設センターで行い、女性の現場代理人や技術者などが活躍している建設現場の見学会・視察について話し合いました。柳瀬会長は、建設業で働く女性のロールモデル(手本となる人)になるような女性技術者にスポットライトを当て、女性活躍をPRしたいと提案しました。

建災防支部長表彰など 県産業安全衛生大会



建設業労働災害防止協会茨城県支部(石津健光支部長)など県内で労働災害防止に取り組んでいる6団体は10月4日、県産業安全衛生大会を水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館(県民文化センター)で開催。建災防県支部長表彰や特別講演などを行い、労働災害防止や労働者の健康づくり推進などを誓い合いました。

大型工事で請負金額大幅増

19年度上半期 県内公共工事

東日本建設業保証(株)茨城支店がまとめた前払金保証実績から見た2019年度上半期(4月～9月)によると、県内の公共工事(施工場所が県内)は3641件で前年同期と比べ3.0%増。請負金額は2001億8100万円で同17.1%増と大幅に増加しました。

請負金額は大型案件があった独立行政法人等や市町村が大幅に増加しました。

19年度の上半期を過去3年間の上半期と比較すると、件数、金額とも最多となりました。

県内の公共工事保証実績(2019年4月～9月) (金額単位:百万円)

	2018年度		2019年度		対前年度増減率	
	件数	請負金額	件数	請負金額	件数	請負金額
国	177	26,421	211	26,157	19.2%	-1.0%
独立行政法人等	66	7,787	60	8,608	-9.1%	10.5%
県	1,459	51,753	1,456	49,314	-0.2%	-4.7%
市町村	1,713	76,757	1,777	83,352	3.7%	8.6%
地方公社	27	1,650	19	915	-29.6%	-44.5%
その他	94	6,529	118	31,832	25.5%	387.5%
合計	3,536	170,899	3,641	200,181	3.0%	17.1%

竜ヶ崎支部
活動報告

64人が 献血に協力



竜ヶ崎支部（細谷武史支部長）では10月5日、竜ヶ崎市建設業組合（佐々木孝夫組合長）の協力を得て献血ボランティア活動を行いました。14回目となる今回は、合わせて64人が貴重な血液を提供しました。同支部では今後も、地域社会に貢献できる団体として活動を続けていきます。

土浦支部
活動報告

暴力追放推進へ 連絡会議



土浦支部（佐々木勇支部長）では、茨城県建設業暴力追放推進協議会土浦支部の連絡会議を10月21日に支部会館で開催しました。支部員、警察署員、県土浦土木事務所や管内自治体の職員など合わせて約100人が出席。土浦警察署が管内暴力団の状況について講話し、全員で暴力追放に取り組むことを確認しました。

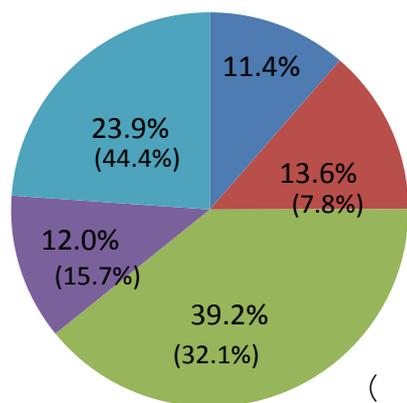
休日増加の取り組み進む 働き方改革アンケート

全国建設業協会（全建）は「働き方改革の推進に向けた取組状況等に関するアンケート調査」の実施結果をまとめました。全建が推し進めている休日月+1（ツキイチプラス）運動については、「取り組んでいる」または「取組を検討している」と回答した企業が前年の39.9%から52.8%と大きく伸び、会員企業の働き方改革への取り組みの進展がうかがえます。

働き方改革の取り組みでは、休日ツキイチプラス運動、単価引き上げ分アップ宣言、社会保険加入促進の各状況を調査。「4週8休制を導入している」という回答は39.2%でした。単価引き上げ分アップ宣言は約8割が周知していました。

今後も各社とも、働き方改革に取り組んでまいりましょう。

休日月1+運動の実施状況



() は前年

- 既に4週8休制を導入している
- 取り組んでいる
- 取組を検討している
- 知ってはいるが取り組む予定はない
- 知らない

高校生がインターンシップ

将来の活躍に期待

本会では、将来を担う若者に建設業への理解と関心を深めてもらうため10月9日～11日にインターンシップ（就業体験）を実施しました。県立茨城東高校の2年生9人を4社（㈱鯉淵工業2人、大昭工業㈱2人、㈱涸沼建設工業3人、㈱松浦工務店2人）が受け入れました。

そのうち大昭工業（茨城町）では皆藤思実さんと小田部雅輝さんが工事現場や工場を見学し、作図などの作業を体験しました。

初日は会社説明を実施。その後、コンクリート二次製品やアスファルト合材などの製造工場を見学。2日目は保育園駐車場舗装工事の現場に足を運び、3日目は測量計算やCAD作図を体験しました。

将来については「設計に携わり、お客さんの理想になるべく近い家を作りたい」（皆藤さん）、「現場の人が作業しやすい足場を組める職人になりたい」（小田部さん）と話していました。

本会では工業系の学校などを対象に現場見学会や現場実習を毎年行っており、平成27年からは普通科高校の生徒にもインターンシップを行っています。



工事写真の撮影に挑戦



保育園建設時の工程について説明しました

会員の動向

〈代表者変更〉

- ▽土浦支部
郡司建設㈱
郡司 直美 → 岸 卓史
- ▽常総支部
野口機設工業㈱
野口 仁一 → 野口 貴生

ちよつと言



ラグビーワールドカップも終わり、にわかファンとしても寂しい限りです。

他国のユニフォームは大体ワンカラーなのに、何故、日本のユニフォームは赤と白のボーダーなのか？それは、日本にラグビーが浸透した頃、他国がすでにワンカラーのユニフォームを着用し、他国と被るカラーは禁止されていたため、日本国旗を連想させる今のユニフォームになったとか。今に至っては、目立っていいですね。 (A)